



Title	都市史論
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1966
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77282
Type	manuscript
File Information	fix_X066_01.pdf



[Instructions for use](#)

都市史論

都市の歴史

2000年

東方の古都市

メソポタミア地方の都市

ギリシアの都市

ローマの都市

中世都市

近世都市

産業革命

都市経済都市

ロンドンは十六世紀より
人口の倍にたつた。

タオリス、ケルヌスアは西紀一世紀代の遺跡

十六世紀

政令に依りては都市経済の時代より国家経済
 の時代に入ると共に都市の自主性が失われ
 と云はれし所也。都市経済の時代は都市
 国家の時代であつても、都市は国家の国家経済の破綻
 は国家の中央集権政治の成立のためである。
 中央集権国家成立は十六世紀に於てである。
 然し是も革命軍が全歐洲に普及するに至つた
 十九世紀初め頃から都市人の勢力が伸び
 城壁もやがて崩れ去るに至つた。これより
 経済の時代に入ると共に都市は自立自
 治の力を回復し、外敵に對する都市
 防衛の力の増大はあつた。この時代は
 都市は自立自治の力を回復し、外敵に對する
 防衛の力を増大した。この時代は都市は自立自治
 の力を回復し、外敵に對する防衛の力を増大した。

一、他民族の来歴が有かつた。

一、身内知の時代武士と武士の戦い、城と城と
 の戦い、市民は三宅の立場にあり、と云

おもしろい。眠中におかしな夢を見た。

一、泉の増に任じた。追うた。物は何れ
てあつた。

一、口泉の中央権力が大任常の落つ
た。

一、群衆の武士の数はあつた。あつた。あつた。
水には自衛し。用で。あつた。あつた。
一、戦口は。あつた。あつた。あつた。あつた。
は。あつた。あつた。あつた。

一、あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
口泉の増に任じた。追うた。物は何れ
てあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

メソポタミアの

最古の文物をさげぬしニエカール人の文物也
新石器の文化 かりンヤのホリスは新石器の文
物にても新石器の文化より新石器の文化とさげぬし
也。

自由経済の中の都市

消費生活の全貌とそれの展開

都市の発展の歴史

月8日 後日

○ 市況の推移とその見通し P.6 は消費生活

○ 札幌の経済の近況は三校 (P.11)

○ 他人経済と共同経済 P.11 P.8

「アインツとインズの研究カイゾー」(Rudolph
 Schum, 1841-1914)が確定されたことを考へたことは
 都市性は市場性の連続発展であり、都市制
 度は市場制度の連続発展であり、都市行政は
 市場行政の連続発展であり、命令題である。
 二、から「L」は世帯である。

もし「L」が「L」に到達した考へは
 「市場性か」か市場性の「L」が都市性による起
 源とする時、有形成態と「L」と「L」の「L」

d. o

日本都市の歴史の意義と発展

江戸時代の政治的変遷と都市の発展
幕府の全盛期は、徳川家康の治世から始まり、その子徳川秀忠、孫徳川家光の治世に及ぶ。この間に、江戸は政治的・経済的・文化的中心地として、急速に発展した。特に、徳川家光の治世（1650-1713）には、幕府の権威が最大に伸張され、江戸の都市圏もその恩恵を受けた。

江戸時代の都市発展と人口増加
江戸時代の都市発展は、人口の増加と密着している。江戸の人口は、17世紀後半から18世紀にかけて、急激に増加し、18世紀末には、約100万人に達した。この人口増加は、都市の拡大と発展を促進した。特に、江戸の中心地である下町は、人口の増加に伴って、ますます発展した。

江戸時代の都市発展と経済的変遷
江戸時代の都市発展は、経済的変遷と密着している。江戸時代は、商品経済の発展期であり、都市は商品経済の中心地として、発展した。特に、江戸の中心地である下町は、商品経済の発展に伴って、ますます発展した。この経済的変遷は、都市の拡大と発展を促進した。

江戸時代の都市発展と文化的変遷
江戸時代の都市発展は、文化的変遷と密着している。江戸時代は、文化の繁栄期であり、都市は文化の中心地として、発展した。特に、江戸の中心地である下町は、文化の繁栄に伴って、ますます発展した。この文化的変遷は、都市の拡大と発展を促進した。

江戸時代の都市発展と政治的変遷
江戸時代の都市発展は、政治的変遷と密着している。江戸時代は、政治的変遷の激しい時代であり、都市は政治的変遷の中心地として、発展した。特に、江戸の中心地である下町は、政治的変遷に伴って、ますます発展した。この政治的変遷は、都市の拡大と発展を促進した。

江戸時代の都市発展と社会的変遷
江戸時代の都市発展は、社会的変遷と密着している。江戸時代は、社会的変遷の激しい時代であり、都市は社会的変遷の中心地として、発展した。特に、江戸の中心地である下町は、社会的変遷に伴って、ますます発展した。この社会的変遷は、都市の拡大と発展を促進した。

江戸時代の都市発展と環境変遷
江戸時代の都市発展は、環境変遷と密着している。江戸時代は、環境変遷の激しい時代であり、都市は環境変遷の中心地として、発展した。特に、江戸の中心地である下町は、環境変遷に伴って、ますます発展した。この環境変遷は、都市の拡大と発展を促進した。

20x20

北海道総合開発委員会事務局

近日常に...

一、
...
...

一、
...

一、
...

一、
...

一、
...

一、
...

...

道社協社會福祉研究所

北海道...

...

...

大...
...

堀 平 尺 に 行 貝 回

富 山 尺 に 依 託

フクイタカカキ工業株式会社
〒412-0001 静岡県沼津市

一、フクイタカカキ工業株式会社の
信託に付いて詳細に

二、フクイタカカキ工業株式会社の
信託に付いて詳細に

信託料の取立は、毎月10日までに
お振込みをお願いします。

信託料の取立

同 業 協 会 調 査

習とは人と人との間の相互
制子の團結である。

人は銃器の使用し始めに俄かに文化
を向上させられたが人は原始的な
夜を始り終らねばならぬ。俄かに文化を向
上せしめよう。

44

No.

里石町より弘前へのヤブ統計一三四回

往復か六七

里石町より青森へ~~往~~道八八二

往復一六四

揚子河としての地方官署関係

行政の在、憲法第九十條中の地方自治の
 本旨として、又官制法第九十條中の地方自治の
 十條の旨の趣旨に於て、起首として、佐藤
 達夫氏の叙述の中心に「明治三年の市制所
 持制の上流を引つぱして、おしんを隣保
 協同の精神」といふ事、然るに、その趣旨は
 ちつていふこととして、
 方では、わかたへて、すべしに地方自治の旧慣
 か、市制の持制、この旧慣を、
 その基礎を確立するものといふこと、
 されど、
 として、その旧慣とは、
 制を指すもの、
 即ち、
 め、
 隣保的協同の精神、
 して、
 するもの、

45巻 11号 p.26

果敢なるの獨立性破滅の可い

一つの果敢なるが獨立して居るか、或は他
 の大東亞の勢力に甘んじ、依りし之のれ自身
 の獨立性を失つて居るか、倘へは大東亞の
 衛星都市の如く寧ろ大東亞の一部に
 是れを可なり位に自主性を失つて居るか、是
 れを見定めよ。一つの半獨立して居る之の
 果敢なるも是れ自身の^{獨立性}果敢獨立性を
 國家的に持つて居るか否か、其の程度如何
 何れよとて是をやると是よ。即ち果敢
 なるも完全な獨立性であるは之の薩長
 徳島諸國を以てし、依りて其の半獨立は
 有薩長、徳島諸國は不詳なりとす。是の依
 りては薩長は自給自足であるから之の依
 りては不薩長、徳島諸國は有する。薩長、徳
 島諸國の獨立の程度が都市の獨立の程
 度を以てし、是のものと見ゆ。

江戸部
江戸の蔬菜供給圏
と足利市の蔬菜供給圏

No.

調査の年

800世帯 年150,000
28日

電話調査

本市免除を、就中、福市を、何本、

の苦を、受け、身を、求め、その、丈の、道程、を、生か、し、
命、に、も、人の、情、は、あ、げ、れ、ら、れ、け、り、

本

建設省地理調査所刊行
国土実態調査

徳永 志 祐 忠

63 市川市

米村 忠 大 隆 忠

135 米沢市

津波 忠 大 隆 忠

94 福島市

周書 忠 大 隆 忠

日本死傷者、その、道程、の、調査、に、関、し、

その、少年、の、協、同、会、

周書 忠 大 隆 忠

道社協社會福祉研究所

市川市 米沢市 福島市 市川市 津波市 周書市

廣城 忠 大 隆 忠

労働組合

市川市 米沢市 福島市 市川市 津波市 周書市

北川 忠 大 隆 忠

(若山町の接吻)

三四年に在任した

(某位時代) 教諭

北川 忠 大 隆 忠

市川市

市川市 米沢市 福島市 市川市 津波市 周書市

可成り、甚、多、の、道程、を、

散居、的、集、合、形、に、

津波

津波市 周書市 市川市 米沢市 福島市 市川市

その、不、明、の、交、通、路、を、

同記

札幌市就学児童の調査報告書

札幌市同業組合の調査報告書

商工局の調査報告書

新札幌市街地の調査報告書

札幌市各業種の調査報告書

道社協社会福祉研究所
調査報告書

札幌市各業種の調査報告書

札幌市各業種の調査報告書

札幌市各業種の調査報告書

札幌市各業種の調査報告書

同記

調査報告書

調査報告書

調査報告書

本居に因りて
神守の御守

健やかに初初を過へて去り速成り

我由人共んハクオシ知れぬ

月寒しの梅羊場にして石狩の

舞の座を今白を舞ひけり

牧場は只のいくと広ふり

程みを知りぬ草の丘なり

編羊の平知れえとの遺容は

ニ、ハ立す候す存すとありさわしくあり

数百の編羊の群を白となく

近丁にて来りて草の原の中

道社協社会福祉研究所

青空の下に我あり 草の原の上に我あり

跡をみ事あり

宗族と青空原に遊びて

白雲とて、霞を食ひけり

本此

土着の地

平塚

松山

丹波

滝川

鹿

都市に因る本

外白のま

都市多額

十二の力

良師

一、指落記

札幌に凡のありは

少くも

物事の件

教授招聘の件

米は不和件

米事人心評

1. テハート、
2. 小島良高虎と即業店、
3. 了る任の即業生活協同組合、
習門高花

孤島高石、市物、高石、高石、高石、高石

予掌河、行高天、行高天、行高天

分員歸主備出、七々、七々、七々、七々

芒十枝の勢力圏
夕陽市の勢力圏

文化

一 行政経済
二 生活協同体
三 行政経済
四 生活協同体
五 行政経済
六 生活協同体

北の行政経済

一 行政経済
二 生活協同体

都市と都市の境界線

都市と村落の境界線
都市と都市の境界線

生活協同体の境界線

生活協同体としての村落の発展

自身はよりよい生活

生活協同体としての都市の発展

授受
 却希程期已純
 持助入
 寺
 國主人
 皆期已純
 満ちたは
 上より下へ果
 下より上へ
 満ちたは
 上より下へ果
 下より上へ

日帯生此花什、六分過邦の程也

四里書、貸借、授受

(高店) 銀研高利化生業店代り也

医療 (王業) 草餅 出生

医名 七葉皮 寺、隠亡、聯坊人、友人、隣人
 入浴 敷袋

教言 魯叔 詐取 盗奪

不念 金 医 物
 娼 作

娼 樂 味 通 ス ポ ツ

職 物

物を賣る方、代りす方、ふ()か
 ()か、代りす方、ふ()か、
 高、代りす方、()場、()部、()

高 買

便 令 代り借、サレヒ
 (タクミヤ左所 居相及)

了 此 查 物

娼 宗 教 医

サレヒ

都年録

三十の十部
本院に送
河野

北海道の各部落の調査に關する研究
研究年順
後

一、北海道の各部落の調査に關する研究の進捗に關する研究
一、北海道の各部落の調査に關する研究の進捗に關する研究の進捗に關する研究

一、調査部落の決定

一、調査部落の決定の調査地

一、調査部落の決定の調査地

一、調査部落の決定の調査地

一、調査部落の決定の調査地

一、調査部落の決定の調査地

都市は都市としてその勢力圏を有し
その中心としてセクターとして存在して居るもの
であるが、此のその勢力圏を強くとするに
何ごの特殊な産業を有するに依りて
いふ所の都市である。その中心は民間の
所であるが、好むは孤立的生産都市
である。そのその都市の中心は中心に
基礎的である。その中心は高層の中心
である。中心は中心は工業(鉱業、炭業、
と建設業、交通業)を中心とする。

十勝大正五甲の掛名をいふは
森實友之 園珍

此等とは人と人との間の相互拘束の
綱領である。

大塚久敏著「近代道庁の歴史」

冬期にたすのきよ

一、都市の社会措置浄水場

一、都市の社会措置(下水道)

一、市街地改良

一、リポート採集

一、ウチ平食心

一、スシ食心

一、都市調査

一、農村調査報告

一、オシムコ

一、都市社会国外社会園の完成

一、反故整理

一、札幌誌文

イカリスにたすのきよ

近代都市の
浄水場

札幌市内消費者商品購入先

No.

品名	購入先							計	購入先							計
	市内小売店	市内小売市場	商店街	専門店	狸小路商店街	市内百貨店	その他		市内小売店	市内小売市場	商店街	専門店	狸小路商店街	市内百貨店	その他	
鮮魚	62	34	1			6	8	111	55.8	30.6 (86.4)	0.9			5.4	7.2	100.00
野菜	74	42	1			5	5	127	58.93	33.13 (91.4)	0.8			3.94	3.94	100.
肉類	65	38	10			10	6	129	50.4	29.4 (77.8)	7.8			7.8	4.6	100.
菓子	84	14	3	7		22	11	141	59.6	9.9 (69.5)	2.1	5.0		15.6	7.8	100.
果実	72	28	1	2		13	9	125	57.6	22.4 (80.0)	0.8	1.6		10.4	7.2	100.
文具	82	1	5	4		16	9	117	70.1	0.8 (70.9)	4.3	3.4		13.47	7.7	100.
歯ブラシ	61	9	3	12		13	17	115	53.0	7.8 (60.8)	2.6	10.4		11.3	14.8	100.
タオル	38	7	5	16		33	11	110	34.5	6.4 (40.9)	4.5	14.5		30.0	10.0	100.
地下足袋	31	3	14	15		11	14	88	35.2	3.4 (38.6)	15.9	12.0		12.45	15.9	100.
ゴム靴	25	1	46	35		16	11	134	18.7	0.7 (2.4)	34.3	26.1		11.9	9.2	100.
下着	22	2	17	32		65	4	142	15.5	1.4 (16.9)	12.0	22.5		45.8	2.8	100.
自転車	22	2	33	3		1	24	85	25.9	2.3 (28.2)	38.8	3.5		1.1	28.2	100.
マフラー	17	1	16	31		57	7	129	13.2	0.8 (40)	12.4	24.0		44.2	5.4	100.
洋傘	17	1	43	28		29	10	128	13.3	0.8 (41)	33.6	21.9		22.7	7.8	100.
家具	16	1	45	6		26	16	110	14.5	0.9 (54)	40.9	5.5		23.6	14.5	100.
帽子	15	1	46	24		40	5	131	11.5	0.8 (23)	35.1	18.3		30.5	3.8	100.
皮靴	13	2	64	24		15	12	130	10.0	1.5 (11.5)	49.2	18.5		11.5	9.2	100.
ミシン	13	1	40	2		12	29	97	13.4	1.0 (14.4)	41.2	2.1		12.4	29.9	100.
作業服	12		16	33		14	13	88	13.6	(2.6)	18.2	37.5		15.9	14.8	100.
学生服	9		29	40		29	6	113	8.0	(8.0)	25.9	35.4		25.7	5.3	100.
服地	8		35	31		55	2	131	6.1	(6.1)	26.7	23.7		42.0	1.5	100.
婦人子供服	6		24	32		50	6	118	5.1	(5.1)	20.3	27.1		42.3	5.1	100.
紳士服	5		55	26		31	6	123	4.1	(4.1)	44.7	21.1		25.2	4.9	100.

(小数点以下四捨五入)

補調査は、札幌市に於て

